

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195100037		
法人名	株式会社 日本キャリアサービス		
事業所名	グループホームだんらん紋別落石館		
所在地	北海道紋別市落石町3丁目27-2		
自己評価作成日	平成26年8月20日	評価結果市町村受理日	平成26年10月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0195100037-
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、利用者本位、利用者中心のケアを大切に、その日その時の各利用者の訴えや状態に合わせ可能な限り柔軟に対応するよう努めています。また、入所時からご本人や家族との相談、月1回の家庭訪問、ケアカンファレンスなどを通じて利用者の生活がより良いものになり、ホームが利用者にとっての「笑顔のはじける信頼のわが家」になれるように取り組んでいます。ホーム長は紋別市地域包括支援センターの委員と紋別市高齢者虐待防止ネットワークの構成員をやっています。施設においても入居者が尊厳あるその人らしい生活を継続出来るように必要な援助、そして高齢者虐待防止対策の促進を進めたいと思っています。暖かい日は施設外行事、散歩、買い物、レクリエーション等で楽しんで頂けるように取り組んでいます。また、施設実習や施設体験として、高等養護、高看、潮見中学校、渚滑中学校の生徒が入居者と一緒に、掃除や食事の片づけ、そしてレクリエーション等でコミュニケーションをとっていただきました。学生には認知症を少しでも理解して頂くよう今後も実習生の受入を継続し、若い世代にも将来の紋別を支えて行く上で必要と思うことから、認知症の啓発も行って行きたいと思っています。

グループホームだんらん紋別落石館は、市内落石地区の閑静な住宅街に立地しています。法人会社は紋別地区に2件のグループホームを有しており、施設長は総合施設長として両方の施設長を兼務しています。地域との関係も良好で、事業所行事に招待したり、町内会行事に利用者に参加する等相互交流に努め、災害訓練への協力を得たり野菜のおすそ分けや日常的に散歩時に挨拶を交わして立ち話をしたりと町内の一員として受け入れられています。施設長は、地域包括支援センター委員や高齢者虐待防止ネットワーク構成員として地域の高齢者福祉を支えると共に、事業所に訪れる実習生に高齢者福祉への理解を促し、未来の高齢者福祉を担う人材作りに寄与しています。開設時に職員で作り上げた理念「いつも笑顔が はじける 信頼のわが家 だんらん」の実現に向け、暮らしの中で喜びを見出せる様に、利用者の意向や心情に沿った利用者本位の介護サービスに取り組み、利用者の笑顔を引き出しています。職員は毎年、年度始めに自己の目標を設定し、取り組みの課題を明確にし向上に取り組んでいます。又、全職員が運営の様々な場面に、委員会のメンバーとして関わる事で自主性を生み出し、モチベーション向上・サービス向上へと繋げています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念は、グループホームの意義を全員で確認し、ホームの在り方を理念としました。職員全員が参加し、作り上げた理念として、利用者との関係性を大切にしたい理念となっています。	開設時に全職員が参加し作り上げた理念は、介護サービスの基盤として職員に浸透し、実現に向けた取り組みを行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のかたの畑で収穫された野菜や魚等をいただいたり、地域行事(野遊会)に参加させて頂いている。また、ボランティアを積極的に受入れている。	町内会に加入し、町内会行事に利用者で参加したり、蕎麦打ちや餅つき等の事業所行事にはパンフレットを手渡しして招待し交流を深めています。災害時の協力も得られています。数多くの実習生の受け入れにも取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修会に参加したり、人材育成の貢献としてボランティア、実習生、施設体験等の受入にも積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げられた内容については、貴重な意見として捉え、改善が必要な事については改善し、サービスの向上に努めている。	定期的開催し、状況報告・行事報告等話し合わせ、参加者からのアドバイスや提案を運営に反映させています。議事録は家族・メンバーに送付し、職員には回覧で周知を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長は、包括支援センターの委員を務めている他気軽に連絡調整を行っています。	施設長は地域包括支援センター委員や高齢者虐待防止ネットワーク構成員を務めており、行政と連携し、情報交換や相談等協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜9時から翌朝6:30時まで施錠を行っているがそれ以外の身体拘束は行っていない。	身体拘束をしないケアについてはフロア会議で話し合いを重ね、確認しながら取り組んでいます。言葉遣い等、気になる事があった場合は説明し、理解を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対する虐待が見逃されることがないように注意を払い防止に努めている。施設長は紋別市高齢者虐待防止ネットワークの構成員を務めており、虐待防止ネットワーク会議等に出席し紋別市の虐待の現状を把握し施設内の防止にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会等に参加し理解を深めたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、管理者、ご本人、ご家族が顔を合わせる中で、契約書を読み上げ、説明や理解に努めている。特に利用料や起こりうるリスク、重度化や看取りに対する方針、医療連携の体制の実施などについて詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の関わりの中やケアカンファレンス会議で直接お話を聞いている。これからもご家族が積極的に意見を発信できる機会を設け、運営に反映させて行きたい。	介護主任が毎月自宅を訪問し、書類や事業所便りを届け、状況を説明し、家族の意見や要望を聞く機会としています。また、利用者・家族の参加するカンファレンス会議を開催し意向の把握に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは常にコミュニケーションをとるように心掛けたり、意見を聞くようにしている。また、会話の中からヒントを得たり思いを考察している。	施設長は月一度のフロアー会議や日常業務時に職員の意見や提案を聞き、運営に反映させています。年に数回の全体会議には法人会社の社長が参加し、職員の意見を聞く機会としています。年度初めには職員が個人目標を立て、施設長が個人面接を実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当ホームでは、職員各自に年度の目標を設定して頂き、自らが取り組む姿勢を大切にしている。向上心を持ち常に学ぶことに重きを置いている。働きやすい職場環境についても職員の要望を聞き入れる他、ゆっくりと休憩が取れる時間と環境の提供を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業者外で行われる研修会には、全職員が交代に参加できるように配慮し、その後、研修報告は全員が閲覧出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	紋別地区の同業者が集まる集いが行われたり、勉強会や連携会議が行われ、お互いに刺激のある交流環境が整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談体制として、ご本人に来所して頂き、見学、説明し理解して頂くことに努めている。また、体験入所も進めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の取り組み、苦勞等これまでのサービスの状況等も含め、ゆっくりと話し合いを持つようにしている。話を聞くことにより、次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のこれまでの取り組みを確認するとともに、地域の福祉サービスの紹介や説明を行い、その方に適したサービスの助言をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや、悲しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮しのなかで分かち合い、共に支えられる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いを伝えることで、ご家族と職員の思いを重ね、ご本人を支えていけるように留意している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の思いのある場所や馴染みのある場所に出かけるようにしている。そういった場所に行く事で笑顔が見られ、利用者様の楽しみとなっていると共により良好な関係を築けるよう留意している。	以前よく買い物に出掛けた商店や、馴染みの美容室へ出掛けたり、友人が訪ねて来た時は歓迎したりと、利用者のこれまでの関係継続の支援に努めています。編み物や書道等以前からの趣味活動の継続支援にも取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を通じ、利用者様の社会的役割が構築されており、「掃除、洗濯、食事の後かたづけ」など自主的に行われており、職員が調整役となり支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた際も、機会があるときに様子を伺うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを活用することで、本人やご家族の意向を把握し、本人本位の生活の実現に向け努力している。	家族からの情報やセンター方式のアセスメントを参考に生活歴を把握し、日常利用者と触れ合う中で思いや暮らし方の希望を把握しています。利用者担当制を取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用することで、一人ひとりの生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、小さな行動からご本人の心身の状態をくみ取れるように努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃から関わり意見の聞き取り、介護計画に反映させている。モニタリングによりサービス評価を行い、再アセスメントをする事で課題を抽出し、現状に即した介護計画作成に努めている。	介護計画作成時には、利用者・家族が参加してのカンファレンスを開催し、意向や要望を把握し、医療関係者からのアドバイスや担当職員の見解を参考に状況に即した介護計画を作成しています。介護計画は生活記録に添付し介護計画を反映した記録作成となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日々の暮らし様子や心身状況、本人の言葉等を記録している。また、いつでも職員が確認出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援は柔軟に対応し、個々に満足が得られるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公的施設の利用や催し物の参加などの支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族が納得したかかりつけ医となっている。受診の際の情報は、ご家族にも報告している。また、必要に応じてご家族にも同行して頂いている。	希望するかかりつけ医の受診支援を行い、必要に応じて家族の同行を得ています。週1回、訪問看護師により健康管理と医療面での相談、助言等連携を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約に基づき、日頃の健康管理や、医療面での相談、助言、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人が入院した時は、2日に一回の面会や身の回りの世話、ご家族への病状報告はこまめに支援している。病院担当者とも情報交換している。洗濯等についても、ホームでしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志確認書を作成し、将来に起こりうる事態に予測をつけ、事業所が出来る最大限のケアについて説明を行っている。さらに、契約している訪問看護やかかりつけ医と連携し、早期発見、早期対応に努めている。	契約時に医療連携、重度化に関する指針を基に利用者・家族に説明し理解を得ています。看取りについては覚書を取り交わす等、話し合いの場を設け意向を尊重した対応に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	紋別消防署に依頼し、救急講習を受けている。また、AEDについても依頼し講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・津波等の災害に備え、管理者・主任・ケアマネと勉強会をして、マニュアルを作成中。避難訓練は実施しているが、地域との協力体制がまだ整っていない。(決まった方のみ協力あり)	昼夜想定避難訓練を実施し、反省点を次回の訓練に活かしています。又、運営推進会議時に消防署職員による火災・災害についての講話が行われ防災強化に繋がっています。	今後更に避難手順の確認や連絡網を含めて地域の協力体制の構築を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わる問題や個人情報に関わる問題については慎重に取扱い、管理している。公開して良いとされている個人情報に関しては、ご本人、家族、事業所間で同意書が交わされている。	個人情報の取り扱いについては本人・家族と同意書を交わし、職員全体でプライバシー保護に十分注意を払い取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との馴染みの関係を通じて、互いに、ものを言いやすい関係を構築している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で区切るような過ごし方は行っていない。入居者のペースに合わせて柔軟に対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に出かけたり、理容室に協力して頂き、出張でカット等して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事を伺うなどして、その方に合った形態の食事を提供している。また、簡単な料理の下ごしらえや食器の片づけなど入居者と協力して行っている。また旬の食材を提供するように心掛けている。	献立はユニット毎職員が作成した食事が提供されています。野菜を採ってきて山の恵みをいただきたりホーム外で焼き肉をしたり、中庭での食事や外食等、食事が楽しみになるよう工夫がされています。栄養士に献立を確認してもらいアドバイスを活かしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量については記録し、食事摂取量については、本人の状態に合わせて記録している。また、入居者にあった食事の提供それぞれのリズムで食事が摂れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、なるべく自分で行ってもらっている。自分で出来ない方は、職員が口中の清潔や入れ歯の洗浄等をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレ利用を第一に考えている。必要な方にはリハビリパンツを使用しているが、不快な思いをさせないように対応している。また、体調が悪い方についてはポータブル対応もしている。	排泄チェック表を基に日中はトイレで排泄できるよう支援しています。又、体調等に配慮し夜間ポータブルトイレの使用で適切な排泄に繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響について理解すると共に、医療職と協力している。服薬や食事からのアプローチにより便秘予防または改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯をホーム側で仮設定しているが、ご本人にその都度確認して入浴して頂いている。入浴拒否等がある場合は柔軟に対応している。	入浴は週2回を基本に本人の希望を優先した支援に取り組み、入浴拒否の場合は無理強いしない柔軟な対応に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のその日の状態や変化に応じて休息出来るように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に処方箋を確認する他、院外薬局の職員が薬を届けてくれる時説明を受けている。また、薬の情報をまとめた資料を用意し回覧出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を通じてご本人が楽しみながら行える活動をしている。(モップがけや洗濯物かたづけ等)また不定期ですがドライブなど外出する機会を多く持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力して頂いて本人の希望の場所へ外出したり、職員と一緒に外出している。また、商店街や馴染みの場所へ案内している。	日常的に散歩や買い物に出掛けたり、町内会行事への参加・祭り見学・ドライブ・花見等、積極的に外出機会を設けています。又、市主催の敬老会にはおしゃれをして出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は個人で管理し、その他の方は事務所管理とし、必要な時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により対応出来るようにしている。電話の使用は自由で、手紙をポストに入れたり、切手の購入などの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や観葉植物や、熱帯魚、壁には季節感のある小物を飾ったり、居心地良く過ごせるように対応している。	共有スペースは十分な広さが確保され、採光良く開放感のある造りで和室も設置されており、生活感や季節が感じられる工夫がされています。熱帯魚の飼育やセラピー犬と一緒に生活しており癒しが感じられる環境になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファを設置し、思い思いに過ごせるようにしている。また、ダイニングでは音楽を聴けるようにしたり、中庭、玄関先にベンチを置くなど工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトについては、安全性を重視し、ご本人とご家族に任せている。持ち込む物についても、なるべくご本人と馴染みの深い物をお願いしている。	居室は本人の馴染みの物が持ち込まれ、安全性に配慮した空間造りがされています。本を読んだり趣味の編み物を楽しみながら本人らしく過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者に解りやすいように案内板などを付け、なるべく自分で出来る部分を増やせるように工夫している。		